

アカゲラ通信



バードウォッチング始めるなら冬がいい！

初心者のみならず、基本を再確認する意味でも、冬の野鳥観察のポイントをまとめてみました。

- 冬は木々の葉が落ちて見通しが良く、鳥の姿を見つけやすい。
- 種類が少ないので覚えやすい。冬の間に基礎を固めておけば春に夏鳥がたくさん渡って来ても柔軟に対応できます。
- 群れに遭遇すると多く見られる：「カラ類混群」は種を越えた群れで行動するため、混群に遭遇すると何種類かの鳥を一度に見ることができます。シマエナガが混じることもあります。



- 春になると混群は解消され種ごとに行動するようになります。
- 冬は餌が少なく、餌をとるために鳥たちが警戒レベルを下げることで、夏よりも鳥の近くに寄ることができます。
- ハシブトガラ、ゴジュウカラ、コゲラは警戒心が薄い鳥ですが、かといって急に動いて近寄るとすぐに逃げてしまいます。

ヤマガラも薄い方ですが、一方でシジュウカラとアカゲラは身近な鳥の割には警戒心が強めです。

- 野鳥は日の出とともに活動開始しますが、冬は日の出時刻が遅いので、あまり早起きしなくとも観察できます。6月に日の出直後に野鳥観察するなら、3時半からとかになります・・・

ちなみに、野鳥は日の出後2時間程でいったん活動が落ち着き、少ししてまた活発になり、11時半頃から13時半頃まで不活発になりますが、これは四季を通してみられる傾向です。



↑写真 ヤマガラ（上） シマエナガ（下）



- スノーシューがあれば夏には笹が多くて行けない場所に行けます。雪が踏み固められていればスノーシューなしでも入って行けますが、夏には見られない景色に出会えるのもまた楽しいものです。
- 動物の足跡が多い：動物（哺乳類）は夜行性のものが多く、一部を除いて姿はなかなか見られないですが、積雪期には足跡が残っていて、動物が意外と多くいることが分かります。夏には得られない楽しい感覚のひとつです。（左写真：エゾリスの足跡）

◎冬の留意点～寒い、滑る、手袋でカメラや双眼鏡を扱いにくいなど一般的なことの他に

- 駐車場がない：旭山記念公園も冬は第2駐車場が閉鎖となり駐車台数が半減しますが、冬に駐車場や駐車可能な場所が閉鎖されたり、除雪の山で狭くなつて駐車台数が減ったり、除雪されず停められなくなる場所も結構多いです。駐車可能かどうかは事前に情報を得ておくとよいでしょう。
- 冬はオーバーパンツや防寒性の高いパンツを履くこともありますが、歩くと擦れてシャカシャカ音が出るパンツは鳥の声を聞き取りにくく、気づくのが遅れたり知らずに通り過ぎたりすることもあります。冬の野鳥観察には、擦れる音が出ないパンツ類を履くことをおすすめします。
- ゴム長靴は要注意：ゴム長靴は便利ですが、雪の中に長くいると足が冷えます。長靴であれば防寒対策がなされているものを、それ以外でも冬用の靴を履くようにしたいです。

◎冬の野鳥観察の楽しみはやはりシマエナガでしょうか。

かつての旭山記念公園、冬は登山や雪遊びなど来訪者は限られていてやや寂しかったですが、シマエナガのおかげで野鳥観察撮影者が増え、冬でも賑わうようになりました。

**レストハウス「ぼるく」は2024年度の営業を終了しました。
2025年度は4月オープン予定です。**

★「ぼるく」は、2024ミュンヘン・クリスマス市に出店しています★

旭山野鳥メモ 66 スズメ

スズメ Tree Sparrow *Passer montanus* スズメ目スズメ科

日本で最も親しまれてきた鳥。留鳥、北海道のものも渡りはしない。

雌雄同色。巣立ち幼鳥は頬の黒斑が薄くて小さい(右写真下)。

旭山記念公園では道路沿いで見られるが、公園内では少なく、森の家の周りでは年に数回見る程度。農耕地周辺や住宅地等森林ではない開けた場所にいる。その割に英名「木」、学名の種小名に「山」とつけられているが、これは欧州では別種イエズメが人の周りにすみ、スズメは都市部にはいないことと関係があると思われる。

人の近くで生活してきたのは、外敵に襲われにくく、家屋に営巣しやすかったため。

10月に東京で行われた日本鳥学会の発表で、このままでは絶滅する可能性があると話題に。個体減少率が年間3.5%を上回ると危機的状況とされ、スズメは3.6%だった。

政府の減反政策により田んぼの面積が減ったことで個体数が漸減し続けてきたが、家屋の高気密化が進んで営巣場所が失われたことも減少に拍車をかけている。

人間の近くにいるくせに警戒心は強いが、雛から面倒をみてゆけば人に慣れることも知られている。

スズメの鳴き声は早起きの象徴のように言われるが、実は活動開始時間は他の野鳥よりも遅い。

スズメの絵を描くのは案外難しい。特に翼の模様は複雑だ。見慣れていてもよく覚えていないことがあると気づかされる。スズメが絶滅危惧種になるかどうかは、人間の生活にかかっている部分もある。



2024年12月の野鳥トピックス

- シマエナガ：ほぼ毎日出ており目線の高さで見られる日もあります
- ミヤマホオジロ：11月中に何度か観察されましたがまだ来るか？
- キクイタダキ：「学びの森」付近で見られる機会が増えてきました
- キバシリ：また時々見られるという程度で少ないです
- ツグミ：低い位置で見られる機会が増えてきました
- シメ：「学びの森」周辺で見られる機会が意外と多いです
- カワラヒワ：今年は遅くまで園内に残っていますが真冬はどうか
- マヒワ：少しずつ観察情報が増えましたがまだ少ないです
- クマゲラ：毎日のように園内で見られ、近くに寄れることもしばしばあります
- ミヤマカケス：例年秋に山から降りて来ますが、今年はまだ来ていません（来ない年もあります）
- ヒレンジャク、キレンジャク：今年はまだ観察されていませんがこんな年は初めてです



↑キクイタダキ

※山の食糧（草木果実等）豊作、北方の繁殖地も食糧豊富で冬鳥が極端に少ないと考えられます

2025年元旦初日の出について

2025年1月1日も元旦初日の出対応で駐車場は5時開門です。初日の出時刻は7時06分ですが、例年6時40分には駐車場が満車となります。当日は警備員の指示に従ってください。

路上駐車は近隣住民の迷惑になるのでおやめください。

当日は駐車場から展望台にかけての辺りが滑りやすくなることもあるので注意してお歩きください。

また、初日の出を見終わって帰る際には人と車で駐車場が混雑しますので、歩くのも車の運転もじゅうぶんお気をつけください。

●初日の出は、藻岩山平和の塔がある丘の東=向かって左の端から昇ります。↑2024（令和6）年の初日の出展望台のいちばん高い場所からは松林の陰になって見えないのでご注意を。むしろ、「テラス状階段」を真ん中辺りまで降りた方がよく見えるし、見る人も少なめです。皆様よいお年を！

